

36 関堀の獅子舞

伝承地：関堀町（観音堂）

話者：20 参考書籍：2



(獅子頭)

折とうする任にあったが、源頼義・義実父子が奥州平定のおり、従軍し関沢の地で討征軍の武運長久及び戦勝折とうの獅子舞を奉納したという。

賊徒退治後、藤原角輔は帰京したが、角輔流獅子舞の技能は永く関沢の人々に受け継がれたと伝えられている。

宇都宮に現存する獅子舞は、一人立三匹獅子舞と呼ばれているもので、関堀町の上（関沢地区）に伝承されている獅子舞のほか新里町の宗円獅子舞、飯山町の獅子舞があり共に市の文化財に指定されている。

関堀の獅子舞は、京都御所内で舞われていたものであったと伝えられており紫宸殿獅子舞藤原角輔流と名乗っている。

藤原角輔は宮中において、悪魔退散・

国家安康を獅子舞で



37 宗円の獅子舞

伝承地：新里町335

参考書籍：2・7・8・29



(宗円獅子舞の奉納)

宗円の折とうのかいあってか、奥州の安部貞任・宗任兄弟はたおれ奥州は平穏になった。宗円は、宇都宮に止まって城を築くと、近江坂本の山王（日吉神社）21社中7社を新里に勧請し（日枝神社）、そこに獅子舞も奉納することになったと伝えられている。

宇都宮に現存する獅子舞は、一人立三匹獅子舞と呼ばれているもので、新里町の宗円獅子舞のほか関堀の獅子舞（関堀町）、飯山の獅子舞（飯山町）があり共に市の文化財に指定されている。

宗円獅子舞は、平安時代の後期に宇都宮初代城主になった藤原宗円に由来すると伝えられている。

宗円は、康平5年（1062）源頼義・義家父子が奥州平定のおり、戦勝折とうの獅子舞を伴って従軍した。

